令和6年度第1回歯科保健医療推進協議会 議事録

開催日時 令和7年3月26日(木) 19時00分～21時00分

開催形式 Web会議システム(ZOOM)

1 開会

2 議題

(1) 第8次神奈川県保健医療計画について

<事務局より資料1に基づいて説明>

(石井会長)

令和7年度の新規事業として「医療的ケア児者歯科人材養成事業費」があり、委託先は県歯科医師会ということですが、コメント等ありますか。

(高橋委員)

県歯科医師会の高橋です。この取組は非常に大切なものだと思っており、我々も良い結果を出せるように頑張りたいと思います。

(渡辺(雄)委員)

県医師会の渡辺です。資料2のスライド11「参考⑤ 要介護・高齢者歯科設置診療所施設・設備整備費補助」についてですが、これは、在宅歯科で対応できない患者さんに対応するような施設を設立するのでしょうか。それとも、在宅歯科診療にて、ワンランク上の高度な歯科診療を行うという意味なのでしょうか。

(事務局〔医療企画課〕)

各地域の郡市歯科医師会や休日急患歯科診療所など、以前より活用している施設があり、そうした施設において、在宅歯科で対応できない要介護・高齢者歯科の外来機能を備えるべく、設備や機器等の整備費が必要ということで予算計上したものです。

(2) 神奈川県歯及び口腔の健康づくり推進計画改定案について

<事務局より資料2-1、2-2に基づいて説明>

(石井会長)

令和17年までの大変長期間の計画ですが、この協議会の委員の任期は2年で、今回が委員改選前の最後の機会です。今回の委員会で、12年間の計画について、皆様からご意見をいただきたいと思います。

県では、最新の知見を踏まえて「オーラルフレイルハンドブック」の改定を行い、普及啓発をしていると説明がありました。ボランティアとして活動する立場や住民の目線でのコメントをお願いします。

最初に、神奈川県食生活改善推進団体連絡協議会の書記の青柳委員、お願いします。

(青柳委員)

自宅のある市町村のむし歯の割合が低かったのを見て、うれしく思いました。これからも食だけでなく、歯や健康も考えて、市民に向けて普及啓発できたらよいと思います。

(石井会長)

一般県民の方の参加も必要だと思います。公募委員の中村委員、いかがでしょうか。

(中村委員)

私は現在 81 歳ですが、社会生活、社会教育を中心とする高齢社会支援を職業にしています。市民団体の活動を設立して 15 年経ち、高齢期の支援を行っています。県の未病サポーターの養成コースを終了しており、高齢期全般のフレイルを理解する機会はあるのですが、口腔に関して、私個人のことも含めて、高齢期の視点が薄いように感じました。地区によっては高齢者人口が 30%になっている状況も把握していますが、歯や口腔に関する教育は見かけないです。私自身の口腔の状況も変わり目という状況にあり、もう少し具体的にお話をいただけたら嬉しいのですが。

(石井会長)

私は今のご発言、いささかショックでした。中村委員のような立場で活動されている方に、県の歯科口腔保健の情報が十分伝わってないのは、いささか驚きでした。神奈川県は、他県と比較して、行政に歯科医師や歯科衛生士が在籍していて、非常に恵まれていると言われています。一方で、中村委員のような立場の方に歯科の情報が伝わってないのは、大変有用な情報だと思います。事務局から発言はありますか。

(事務局〔健康増進課〕)

中村委員からのご指摘で普及啓発の不足を実感したところですが、口腔機能が低下してくるのは高齢者に限った話ではなく、40・50 代から低下すると言われていています。事務局の説明で触れた「オーラルフレイルハンドブック」は、そうした方々に最新の知見も含めて理解していただきたいと思い、改定を行いました。

これ以外にも、計画の指標の中で、例えば 80 歳で 20 本以上歯を有する者の割合等も掲げており、高齢の方が生涯通じて健康な口で食べていただきたいと思っています。

そうした目標が達成できるよう、来年度以降も様々な施策を推進してまいります。

(石井会長)

専門的な情報が必要であれば、県や地域の行政に言っていただければと思います。

続いて、子どもの歯及び口腔の健康づくりの取組について、小・中学校の教育関係者の方からコメントいただきたいと思っています。神奈川県公立小学校校長会副会長 今野委員、よろしくお願いします。

(今野委員)

子どもの口腔の健康づくりには、小学校の力がとても大事だと考えており、本校の取組についてお話しします。

6 月は歯を大切にしようとの目標で、学校保健の保健教育の指導を進めています。学校には歯みがきをする時間や場所等の問題がありますが、子どもたちに歯みがき指導を行うと同時に、噛むことを意識した給食の献立に取り組んでいます。例えば、カムカムご飯という、お米と麦と一緒に炊いたものを給食に提供しています。その際にアジの竜田揚げでカルシウムも摂って、歯を意識させています。その他に、6 月の献立の中には、アーモンドトーストやポークビーンズ、昆布と豚肉の炊き込みご飯、ししゃものから揚げなどがあります。本校では、学校給食を自校方式で提供しているため、栄養士と養護教諭と協

力し、6月の保健教育を進めています。

本日の会議を踏まえ、小学校のうちからしっかりした計画を立てて、口腔の健康づくりを指導する必要があると思いました。今後も継続して取り組んでいきたいと思えます。

(石井会長)

大変意欲的な試みで、驚きました。学校独自の取組ですか。市町村の取組でしょうか。

(今野委員)

献立は市内同一ですので、市としての取組です。

(石井会長)

学校歯科医という専門職もあり、噛むことに関わる場所です。既に取り組んでいらっしゃるのかもしれませんが、学校医師会との連携があるとよいと思えました。

(今野委員)

地域歯科医師会の歯科医師に協力いただき、歯科巡回指導も行っています。また、2・5年生の児童を対象に、歯の口腔内が身体の健康に及ぼす影響や歯肉炎の原因・予防等について、直接お話していただく機会も設けています。

(石井会長)

大変結構なことだと思います。

次に、地域や職域で、歯と口腔の健康づくりに取り組まれている方からコメントをお願いします。神奈川産業保健総合支援センター副所長 高橋委員、お願いします。

(高橋委員)

我々は、いわゆる労働者の健康等に関する取組をしており、その中で、歯科に関することも周知しています。今年度も口腔に関するセミナーを1回、Webで実施しました。来年度も1～2回程度、歯科に関するセミナーを実施しようと思えます。

(石井会長)

セミナーには、どれくらいの企業が参加されておられますか。

(高橋委員)

前は30名程度の参加でした。長時間だと途中で退出される場合もあるため、60分程度で実施しています。

(石井会長)

講演する講師は、歯科医師や歯科衛生士などの専門職ですか。

(高橋委員)

今年度は県歯科医師会の方に講師をお願いし、実施しました。

(石井会長)

続いて、公益財団法人かながわ健康財団健康づくり課の八百委員、お願いします。

(八百委員)

私どもは、県民の皆さんに、疾病の予防、健康増進を推進していく立場であり、正しい情報や実践的な情報を広報しており、歯と口腔対策には、特に力を入れています。

むし歯・歯周病対策等の普及啓発媒体として、県歯科医師会や歯科衛生士会の方々にご協力いただきながら、歯科保健情報誌を年2回発行しています。配布先は幼稚園から高齢者施設までほぼ全団体をカバーしており、幅広い内容を提供しています。

また、発信方法も、紙のほか、Webブック形式とし、財団ホームページや県歯科医師会、県歯科衛生士会のホームページからも見られるように工夫しています。

それから、対面での普及啓発としては、県民を対象としたセミナーのうち、少なくとも年1回はお口の健康をテーマにしています。昨年も、大人のむし歯をテーマにしたセミナーを行い、50名ほどの参加をいただいています。

この他、職域での取組として、企業の役員、経営者の方等を対象とした職場向けの研修等も行っています。また、機会をとらえて、生活習慣病に繋がる歯周病対策というようなテーマで、財団の保健師と県歯科衛生士会から講師の方を派遣していただきながら、活動を行っています。

計画は長期に渡りますが、今後とも皆さん方と連携しながら、県民にしっかりと情報を伝えていきたいと考えています。

(石井会長)

県民に幅広く働きかけている団体ですので、今回の計画でも多くの項目が関連していると思います。お話があったように、長期の計画ですので、財団としても注視していただき、ご意見があれば協議会等の機会に頂戴できればと思います。

次に、医療関係団体の皆様からコメントいただきたいと思います。県医師会の渡辺委員、お願いします。

(渡辺(雄)委員)

診療を行う側として、糖尿病の患者さんの歯周病に関して意識するようになってきましたが、足りないと思うのは、オーラルフレイルです。

例えば、ご高齢の患者さんが来院されて、最近食欲がない、食べられなくなってきてあんまり元気がないとなると、我々医者は、内科的な疾患を考え、口腔の変化に気がつかないということがあります。私は在宅医療もやっていますが、介護施設では職員が、在宅では訪問看護師が口腔ケアを行うようになり、何か問題があると歯科衛生士に依頼したり、直接歯科医師に往診を依頼することもあります。そうした意味で、介護施設等でも、歯科の先生と口腔ケア、オーラルフレイルを含めた連携が、以前よりできていると思います。我々医者の方も、患者さんの口を見るように心がけることが大切だと思います。

(石井会長)

医科歯科連携は国を挙げて言われており、在宅は、必ず医療と歯科医療が関連します。医科歯科連携の推進について、計画ではどのように位置づけられていますか。

(事務局〔健康増進課〕)

健口かながわ推進計画の中では、糖尿病などの疾病と歯周病との関連性について記載しており、医科歯科連携を推進していく必要があると考えています。

さらに病院や高齢者施設におけるオーラルフレイル対策として、誤嚥性肺炎等の防止のため、口腔清掃指導とオーラルフレイル対策を一体的に実施するような医療介護分野における連携に資するような取組なども、引き続き来年度も実施しようと思っています。

このような取組を通じて、病気になる前から、対策を行っていききたいと思っています。

(石井会長)

そうした取組が功を奏してくるとよいと思います。

続きまして、県歯科医師会の加藤委員、お願いいたします。

(加藤委員)

先ほど事務局から説明のあった事業を県と県歯科医師会で連携し、推進しています。

課題として、今年度、小学生の集団フッ化物洗口を、県内小学校で3か月間モデル事業として実施しました。今後、展開するにあたり、県下の小学校や教育委員会等の各関係団体のご理解・ご協力が必須になります。県行政と歯科医師会等が連携してがんばっていますので、どうぞよろしく申し上げます。

(石井会長)

フッ化物洗口について、第一歩を踏み出したのは大変貴重なことと思います。

教育委員会や市町村の方のご理解・協力が得られて実施したのでしょうか。

(事務局〔健康増進課〕)

今年度のモデル事業ですが、市町村教育委員会と小学校1校にご協力いただき実施しました。この実施内容などを踏まえて、今後、県内で展開していくにあたり必要な事項や課題を整理して、拡大していきたいと考えています。

(石井会長)

続きまして、県歯科医師会の高橋委員お願いします。

(高橋委員)

フッ化物洗口に関しては、追加はありません。

医師会の渡辺先生の発言にあった医科歯科連携についてですが、周術期も含め、今回の計画にもう少し色濃く記載した方がよいかと思いました。引き続きがんばっていきますので、よろしく申し上げます。

(石井会長)

大変計画期間が長いですが、途中で中間評価等もありますので、ぜひ、この点注目していただきたいと思えます。

続きまして、県歯科衛生士会の打矢委員、お願いします。

(打矢委員)

この健口かながわ推進計画の中の様々な事業に歯科衛生士が関わり、ご協力させていただいているところです。今年度は、集団フッ化物洗口のモデル事業に本会も関わり、課題等も見えてきました。長い計画の中で、やはりこのフッ化物洗口をどう進めていくのかは、本会としても注視しているところです。今後も、むし歯予防、あるいは、今のお子さんたちの口腔機能の低下まで、関わっていきたくて考えております。

高齢者の口腔ケアについては、いろいろな角度で、いろいろな職種に関わっていただかないと、今の高齢者の健康寿命等を延ばすことはできないと考えております。高齢者への対応も重要ですが、今、働き盛りの方々に、どのようにフレイルやオーラルフレイル等を伝えていけるのかが鍵になると考えているところです。長期に渡るこの計画の中で、これまで以上に県民の歯科保健に協力したいと思えますので、よろしく申し上げます。

(石井会長)

保健医療計画では、歯科衛生士が足りないといわれています。免許はあるが、歯科衛生士をやっていないという、これは全国的に言われていることですが、いかがでしょうか。

(打矢委員)

確かに免許を持っていても、実際には働いてない歯科衛生士がたくさんいるという現実があります。やはり本会の会員の人数と、就業歯科衛生士の人数、就業していない歯科衛生士の数、卒業している歯科衛生士の数に比べると、現場に関わっていない歯科衛生士が多いのが現状です。県歯科医師会では復職支援等の事業をされていますが、その中から、1人でも復帰する歯科衛生士さんがいてくださればよいと思っています。

本会としても、養成課程からアプローチすることや、歯科衛生士の資格を持っている人にホームページ、あるいは公式LINE等、呼びかける方法を考えているところです。

(石井会長)

ぜひ、よろしくお願ひしたいと思います。

それでは、神奈川県歯科技工士会の原田委員、お願ひいたします。

(原田委員)

歯科技工士は、県民の皆様にご直接お会いする機会はなく、歯科医師から模型やデータをいただき、差し歯や入れ歯等を作ることが主な仕事です。差し歯は機械化が進んでおり、受注数に合った製作が可能です。一方、入れ歯は機械化が難しく、人の手が必要で、製作が追い付かず、人手不足のために非常に深刻な問題になっています。私の会社も16人歯科技工士を抱えています。もう仕事は追い付かず、県内中に電話して聞いても、どこも余裕がありません。全国どの地域でも製作が追いついていないという状況で、非常に深刻な問題になっています。

今日、オーラルフレイルハンドブックを拝見して、本当に素晴らしい内容のハンドブックだと思いました。我々の業界は、入れ歯の製作が難しくなる時代になります。ぜひ8020運動やオーラルフレイルを県民の皆様にご周知していただき、県民のデンタルIQを高めていただきたいと思います。

オーラルフレイルハンドブックは、どのように配布されているのでしょうか。

(事務局〔健康増進課〕)

このハンドブックは幅広く県民の方に配布しております。ご希望がありましたら、事務局にご連絡ください。

(石井会長)

歯科技工士不足ですが、特に有床義歯の供給は、間違いなく不足すると言われてます。むし歯が減って歯科疾患は減っていますが、現在、60~80代の方は子どものころに一番むし歯があった人達であり、高齢になって、多くの方が歯に傷を持っている状態です。それらの方が要介護状態になると、管理が行き届かず、歯を失ってしまう。実は歯を失う日本人は増えつつあるとも言われていて、この先数十年は、欠損補綴に対する需要は高まります。高齢者の歯牙喪失をどの程度抑えられるかにかかっていますが、今の高齢者は既に歯科治療を受けた歯を多く持つ集団です。国も、歯科技工士の問題を含め、検討しています。県でも、高齢者で咀嚼障害を起こした人への対応が、今後問題になる可能性があると思います。

次は、市町村の歯科保健担当の方々から、ご意見をいただきたいと思います。

横浜市健康福祉局健康推進課、安永委員お願ひします。

(安永委員)

横浜市でも令和6年度開始の計画を策定し、オーラルフレイルの認知度を指標の1つにしています。オーラルフレイルに関する取組は令和元年度から進めていますが、そろそろ内容の見直しを考えていたところに、昨年度、3学会合同ステートメントが示されました。現在、市全体で使える媒体を検討しているところです。県の取組を参考にさせていただこうと考えています。

また、計画の評価についても、県が実施された実態調査の結果を共有いただき、横浜市の状況を確認しながら進めていきたいと考えています。

(石井会長)

横浜市は市の歯科条例があるとのことですが、市と県の条例の両方があることで、行政上の良い点や悪い点等、何かございますか。

(安永委員)

今のところ、課題に感じているところはありません。市が独自に条例を持つことで、目指すことが明確になり、横浜市での歯科の取組が進みやすくなっていると考えています。

(石井会長)

歯科条例の制定は全国的に本当に広がっていますし、市町村レベルでも条例を持つ自治体が増えていますが、今後は見直しの時期になってくると思います。

次は茅ヶ崎市の渡辺委員、お願いします。

(渡辺(晃)委員)

茅ヶ崎市では、オーラルフレイル対策に力を入れています。当所では継続的に口体操を実施してもらうため、私達スタッフが橋渡しをし、口体操ボランティアさんが、ミニデイで継続的に口体操を実施できるよう施設のスタッフを支援する事業を展開しています。昨年度、ミニデイに参加している方たちにアンケートを実施したところ、毎日やっている・時々やっているなど、おうちでも継続して実施している方が結構いらっしゃったので、来年度はミニデイ参加者が自宅で継続してやる人を増やしていく、工夫していきたいと思えます。また、当市では高齢福祉課で、歌体操という歌いながら体操をする教室を実施し、オーラルフレイル対策を行っていますし、健康増進課なども関係課と連携しながら、高齢者の口腔の健康づくりに力を入れています。

先程、県医師会の渡辺委員から、在宅医療について、医師と歯科医の連携は必要だが、医科の方で口腔への意識がやや不足しているとのことでした。医療企画課で報告された「在宅歯科医療連携拠点運営事業」の業務概要に、「医科・介護連携業務」という事業を県歯科医師会に委託しているようですが、この事業予算を活用して医師と歯科医師が連携する取組ができないのかなと感じましたが、いかがでしょうか。

(渡辺(雄)委員)

おっしゃる通りで、医科の方にそうした場を設けていければ、今後さらに、進んでいくだろうと思えます。また1地域でそういう取組が始まれば、広がっていくと思えますので、個人的にはぜひ進めたいと思えます。よろしくお願いします。

(事務局〔医療企画課〕)

本事業自体は、医療企画課の方で委託しているものですが、どのように進めていくかは、県歯科医師会とよく調整をしながら進めていく必要がありますので、今お話いただいたことについては、相談しながら検討していきたいと思います。既に7年度予算は措置されていますが、令和8年度以降どうかたちで取り組んでいくか県歯科医師会と議論しており、ご意見も参考に、今後対応を検討させていただければと思います。

(石井会長)

次は、厚木市健康こどもみらい部健康医療課、富岡委員、お願いいたします。

(富岡委員)

私は、健康づくり部門で、成人を対象に歯科健診等を担当しています。オーラルフレイル健口推進員の養成もしており、県の計画にある養成目標人数に貢献できればと思っています。厚木市独自の取組としては、オーラルフレイルに関し、来年度からオーラルフレイル健診を実施する予定です。これまで厚木歯科医師会と協議を重ね、いよいよ事業実施というところです。また併せて、㈱ロッテと厚木歯科医師会と、市民の歯と口の健康づくりに関する連携協定を結ぶことになっています。きっかけはオーラルフレイル健診ですが、ロッテから、お子様から高齢者の方含めてお口の健康づくり、口腔機能の向上も含めたいろんなご提案をいただいていますので、我々、健康医療課以外でも、連携協定を使って市民の歯と口腔の健康に、役立てればと思っています。

(石井会長)

オーラルフレイル健口推進員ですが、現在、どれくらいいらっしゃいますか。

(富岡委員)

現在活動している方は16人程です。毎年数名ずつですが、養成しています。

(石井会長)

ぜひ地域でどんどん、さすが厚木、という具合に進んでいただければいいと思います。

次に、箱根町福祉部保険健康課の斎藤委員、お願いいたします。

(斎藤委員)

当町では、歯科保健に限らず保健衛生全般において、幼児期には月齢に応じた健診や、高齢期には介護予防運動や健康教室などを通じて、町民との接点がありますが、高校生から働く世代に対しては、アプローチできる機会がない状況が課題となっています。

そうした中で、これまでの経験を踏まえ、昨年度、自宅で気軽にできる運動に関する動画を作成し、現在、町の公式YouTubeで配信しているところです。その動画は、口腔機能の維持・向上を目的としたものもあり、そうした動画視聴に誘導できるような取組を進めていきたいと考えているところです。

また医療体制においては、町内の歯科診療所が現在4か所であることも課題の1つであり、箱根町管轄の小田原医師会歯科医師会との協力が重要と考えています。

(石井会長)

動画には、口腔機能の維持・向上も含まれているとのことですが、歯科医師などの歯科の専門職が加わって作成したのですか。

(斎藤委員)

かながわ健康財団に委託をして作成しました。口腔機能だけではなくて、運動全般、

体全体の運動も含めて、全体で12種類の動画を作成しました。

(石井委員)

次は学識経験者として出席いただいている委員の方からお願いしたいと思います。

最初に、東京科学大学の則武委員、お願いいたします。

(則武委員)

歯科衛生士や歯科技工士の不足という問題があり、歯科の計画の12年後の目標達成に必要な人材が不足する可能性が高いと思われます。そのため、どのように効率的・効果的に事業を行っていくのかという観点で具体的な取組があると、より、目標の実現性が高まるのと感じました。

全国の中でもモデルとなる神奈川県だと思っています。取組が全国に広まって、皆がそれを真似できるよう、ご検討していただけるとよいと感じました。

例えば、オーラルフレイルについて、いろいろと活動されていると思うのですが、それが、例えばこれらの活動が健診の結果と具体的にどのように結びつくか、効果があったかがデータとして明らかにされてくると、より効率の良い取り組みにつながるのではないかと感じました。

(事務局〔健康増進課〕)

県では、オーラルフレイル改善プログラムを作成し、実際にオーラルフレイルの方が歯科医療機関と協力して、ご自宅で取り組んでいただいているところです。オーラルフレイルのチェック項目でオーラルフレイルと判断された方の中には、実際には、治療が必要な口腔機能低下症などの方も混ざっていると考えられます。疑いのある方には、適切に歯科医療機関に繋いでいく体制の構築が非常に重要と思います。

また、オーラルフレイルでない方も含めた幅広い取組として、オーラルフレイル健口推進員の方々にご協力いただきながら、通いの場などの場で、歯と口からの健康づくりを伝えていくことが必要と思います。これらはどちらも欠けても、うまく進まないものだと思います。

疾患については、歯科医師が役割を果たしていただく部分であり、非常に重要ですので、その役割を果たしてもらいつつ、それ以外の部分は、ボランティアの方や、もちろん市町村の皆様とも連携しながら、効果的・効率的に普及啓発し、施策を展開できればよいと考えています。

(石井会長)

実際に、多くの歯科診療所に協力いただき、患者の口腔内の状況とオーラルフレイルの状況を調べた上で、口腔機能の改善プログラムを実施し、改善するという統計的なデータが出ています。また、この協議会等で取り上げてよいのかもしれませんが。

続きまして、神奈川歯科大学山本委員、お願いします。

(山本委員)

今回の協議会では、計画の進捗状況と新たに作成したオーラルフレイルハンドブック、フッ化物洗口事業がテーマとなっています。これらが重要だからだと思うのですが、計画期間の12年間の流れという大きな視点で考えてもよいと思いました。というのが、計画では、各ロジックモデルに膨大な数の事項が書かれています。これは、おそらく県の人員

だけでは無理だと思います。健康増進課職員の方も一生懸命やっていますが、なかなか全ては難しい。むしろ、県が全てを実施する必要はなく、歯科保健の実働は市町村だと思います。市町村がどういう事業を実施しているか、しっかり情報収集し、各市町村の歯科保健の状態がどういう状況であって、何が足りないか、助言をするような仕組みがもうあるのかもしれませんが、あったらよいと思います。

また、各年度の事業で、あらかじめ事業を実施する前に、どのようなアウトカムを期待し、どういう結果が出たら、次年度はどう実施するのかを考える必要があります。昨年度と同様の予算立てをしたというのは、おそらく前年度にうまくいったからだと思うのですが、PDCAを回して評価をした方がよいのではと思いました。

私は今、小田原保健福祉事務所、厚木保健福祉事務所、茅ヶ崎市、藤沢市、横浜市の歯科保健施策に関与していますが、どこでも似たパンフレットを作成したり、似たような施策を一生懸命考えられています。そこは県として、何かしら統一するなり、情報共有するなりしてもよいのではと思います。

歯科専門職が未配置の自治体は、本当に大変だと思います。なので、県内でうまくいっている事例は市町村でも展開するなど、各市町村に手を差し伸べ、神奈川県全体として、均等化、地域格差のない方向に進んでいくのを願っています。以上となります。

(事務局〔健康増進課〕)

市町村の情報収集が必要という点はまさにご指摘のとおりです。

また、計画の指標でも、ロジックモデルを踏まえ、例えば歯周病に関する事業を実施する市町村等の事業を実施する市町村数などを、目標値に複数掲げています。これらの評価を行う観点からも、令和6年度の市町村の状況などは、来年度以降、把握することを予定しています。

今年度は計画初年度で、お示しできるデータも少なく、先んじて取り組んだフッ化物洗口とオーラルフレイルハンドブックに重点を置くこととしました。来年度の協議会では、今年度のベースラインとなる値が出てくるので、具体的なデータをお示しし、どう進めていくべきかご意見をいただければと思っております。

(石井会長)

次に、鶴見大学歯学部 of 梁委員、お願いいたします。

(梁委員)

大学では、学生にフッ化物はう蝕予防に効果があり、乳歯が生え変わる小学生の時期の使用がとても重要と伝えていたのですが、県内の小学校でフッ化物洗口がほとんど実施されていないと知り、とても衝撃的でした。現在、モデル事業として実施しているとのことですので、計画を推進するためにも、なるべく早い時期から、実施可能な幼稚園や小学校等で継続してフッ化物洗口を行い、う蝕予防を推進していただきたいと思います。

今回、子どものう蝕のデータを示していただき、県内でも格差があることがとてもよくわかりました。多分、自分の市がこんなにむし歯が多いと気付いてないと私は思うので、可能な限り、一般の方にもデータを示したほうがよいと思うのですが、いかがでしょうか。

(石井会長)

委員のご指摘について、事務局のいかがですか。

(事務局〔健康増進課〕)

梁委員からご指摘は、むし歯のない子の割合等について、市町村でも差があるので、もっと資料を示すべきではないかということと受けとめております。このデータは、昨年度の協議会からお示しをしているところで、まだ2年間分しかありません。本日は昨年度のデータはお示ししておりませんが、市町村によってはN数が少なく、ばらつきがあるところもあり、どのように評価するか、今後、推移を見ながら検討するべきと考えています。

本計画の目標の中でも、「12歳児でむし歯のない者の割合が90%以上の市町村数」を目標値に掲げており、現状は4市町村と本日ご説明しましたが、それを20市町村まで増やすこととしています。目標達成には、フッ化物洗口等にも取り組む必要があると思いますが、学校での集団フッ化物洗口は、当然ながら教育現場のご理解が必要です。よい取組と思っていますので、関係者の皆様のご理解を得ながら進めていきたいと考えています。

(梁委員)

県内市町村別の歯科疾患の実態は、県民が見られるようになっているのでしょうか。

(事務局〔健康増進課〕)

歯科疾患の実態とは、今お示ししている12歳の定期歯科健診の結果だけではなく、それ以外の、例えば高齢者等の歯科疾患についても市町村別のデータを示すべきということでしょうか。県民歯科保健実態調査で、地域別のデータを出していますが、横浜市など、比較的規模の大きいところは市としてのデータとしてまとめていますが、県域市町村分は、保健福祉事務所等の単位でのデータで公表しています。この調査は、各地域歯科医師会に協力いただき、地域の規模別に地域ごとの調査協力機関を設定し、受診された方に対して調査を行っています。そのため、町村レベルでデータをお示しするほどのN数は確保できていないのが現状です。

(石井会長)

確かに、県民にこうした情報が公表されるのは重要なことかなと思いますが、現状はまだということですね。

(梁委員)

歯科医師会はもちろん、市民の方々も把握すると、より一層がんばってくれるのではと思い、お聞きしました。

本協議会では、オーラルフレイルの話がよく出ており、新しいハンドブックの報告もありました。私は学生に、オーラルフレイルのことを話すときに基本的なことを話したうえで、横浜市のホームページに掲載しているオーラルフレイルの資料についても説明します。学生に配布する資料にも入れています。どのホームページに行けば、どのような情報が得られるか分かるように誘導しているつもりです。県では、歯科医師会やいろんな施設で配布しているとのことですが、みんなが分かるように活動することで、そのハンドブックがここに行けば入手できると分かるようになって、先ほど中村委員からの発言のようなことにならないと思います。

私たちは知っていて当たり前ですが、一般市民が知らなければ何も始まりません。長期間の計画を立てても、目標に達しなかったという結果に陥ってしまう可能性が大いにあると思いますので、力を入れた方がよいと感じました。

あと高齢者の健診もそうですよね。義務ではないのですけれども、もうちょっと活発にやっていただけたらいいかなというふうには思っています。以上です。

(石井会長)

大変貴重なご意見ですので、ぜひ、事務局は努力していただきたいと思います。

オブザーバー出席の神奈川県後期高齢者医療広域連合の浅野参考人、コメントがあれば、ぜひお願いします。

(浅野オブザーバー)

私どもも第3期データヘルス計画を昨年策定し、その中で、県歯科医師会に委託し、75歳の方の歯科健診を実施しています。また、市町村に委託し、高齢者の保健事業と介護予防の一体的な事業実施の中で、口腔事業を位置付けています。この一体的実施は、令和6年度から33市町村が開始しており、ハイリスクの方へのアプローチとあわせて、ポピュレーションアプローチも実施するとなっていますので、オーラルフレイルの周知などもその中で実施していけるとよいと思います。

口腔の事業に関しては、一体的な実施のうち、低栄養事業の際に、食べられなくなったというお話も聞き、お口の問題は様々な分野と関わりがあることが分かりました。効果的に実施するためには、口腔と低栄養の事業を両立できないか、横展開ができないかについても、検討していきたいと思っています。

また、先ほど高齢者の健診の話もありましたが、高齢者の体の健診を実施するときに、高齢者の質問票をとっており、その中に口腔の項目があります。そちらの方での把握することも併せて実施して、一体的事業の中で取り組んでおります。

(石井委員)

高齢者、特に後期高齢者は、国あげての問題ですし、広域連合の機能はとても期待されているところです。今後も本協議会にご意見をお寄せいただければと思います。

皆様からコメントいただきましたが、委員の方から、全体についてご意見、コメントがありましたら、挙手をお願いしたいと思います。

(事務局〔健康増進課〕)

神奈川県歯科医師会の千葉委員がお見えになりました。

(石井会長)

千葉委員、ぜひ、ご意見をお願いします。

(千葉委員)

大変申し訳ありません、途中で参加になりますが、発言します。

私は海老名市内で開業をしており、海老名市ではオーラルフレイルの事業にはずっと取り組んでいます。今は、県歯科医師会の活動とは別に、海老名市の歯科医師会として、オーラルフレイルの対策を住民にどう落とし込んでいくかを検討しています。ちょうど本日、海老名市健康推進課と、東京科学大学の松尾教授が行っているカムカム健康プログラムを、海老名市で導入しようということで、今度6月に体験会を行い、8月頃から半年かけて、住民に向けてプログラムを実施する計画を立ててきました。

我々もマンパワー・リソースが少ないのですが、今回のカムカム事業は、大学の他に、保険会社が入っており、そういうところのリソースを使いながら、地域の活動を担う住民

ボランティアと連携して、オーラルフレイル対策を広げていく方向で動いています。このような事業で得られた知見を共有しながら、県内に展開できればと思います。

また、6年前に県のモデル事業でやったオーラルフレイルの介入調査については、私の診療所の患者さん25人ほどで実施しました。当時、70後半から80歳ぐらいの方を調査しましたが、その5～6年後の状態を調べてみました。そうすると、オーラルフレイル判定だった方はやはり認知症になり、その後お亡くなりになられている方や連絡が取れない方が多かったです。一方、オーラルフレイルのリスクありという判定でも、定期的に通っている方は、80代半ばに差しかかっていますが、今でも自立して、自分の足で通っています。私の少ない知見ですが、オーラルフレイルではなかった、もしくはリスクありでも定期的に歯科医院に通っている方々は、要介護になっていないと感じています。先日、海老名市の介護部門にデータを見せてもらったところ、全国、近隣市町村に比べて、やはり重度の要介護のパーセントが低いというデータも出ています。要介護の方は、パラメーターが多いので、歯科がどのくらい関与しているかは明らかになっていませんが、このオーラルフレイル対策を進めていきたいと思います。

(石井会長)

ありがとうございました。海老名市は、モデル地区として神奈川県下でも先頭を走っているところだと思いますので、ぜひ、今後も頑張ってくださいと思います。

どうでしょうか。特にご意見がなければ、本日の議題は終了ということにしたいと思います。活発なご意見をどうもありがとうございました。

以上